

開催日：10月27～28日 開催場所：新千歳モーターランド 格式：国内 主催：AG.MSC北海道 [クラブ登録No.公認01001]、C.S.C.C. [クラブ登録No.加盟01024]、NC.ASC [クラブ登録No.加盟01113]

フォト／加藤和由、JAF スポーツ編集部 レポート／ JAF スポーツ編集部

DC2インテグラマイスターが競ったSA2クラスは近畿の前田忍選手が逆転で優勝を飾った。



近畿から遠征の前田忍インテがJAFカップ初制覇

2018年のJAFカップジムカーナは北海道千歳市近郊の新千歳モーターランドが舞台となった。同コースは全日本選手権が開催されるオートスポーツランドスナガワと並ぶ北海道のスラロマー達のメッカとも言える競技場だが、JAFカップジムカーナは初開催。全国各地から約100名近いスラロマーが集結し、覇を競った。

新千歳モーターランドはレーシングカートも可能なミニサーキットだが、ジムカーナはサーキットの隣に位置する広場で行われている。し

かし広場の中には大小の島があり、コースジムカーナ的な雰囲気も楽しめる。関東の浅間台スポーツランドや四国のモーターランドたちかわを彷彿させるコースだ。

レースウィークは金曜から練習走行が行われ、そのほとんどが初走行となる本州のドライバー達を中心とした参加者が慣熟に務めた。天候は金曜は晴れたものの、土曜は朝から雨が降り続いた。そして決勝日の朝も走行開始直前から激しい雨が降り出した。雨はヒート1の途中で収まったが、このコンディションのため、事

実上、2本め勝負のバトルが展開された。

2017年からJAFカップに新設されたWomenクラスは関東の加盟クラブ、STPに所属し、ともにBRZに乗る東方紀美恵選手と亀井佳子選手によるチームメイトバトルが展開され、0.35秒差で東方選手が亀井選手を振り切り、2年連続でWomenクラスを制することとなった。

「2本めも前半はグタグタで、一瞬、終わったと思った」という東方選手。「ウェットからドライになった路面に合わせきれず、全体的に突っ



WOMENクラス／1. 上位入賞の各選手。**2.** ヒート1のミスコースから2位まで挽回した亀井佳子選手。**3.** 3位入賞の大江美由希選手。**4.5.** 2年連続でWOMENクラスを制した東方紀美恵選手。





PN1&PN2 / 6. ドライに転じたヒート2で圧巻のタイムを叩き出して優勝の福田大輔選手。7. 地元での金星を狙ったPN1米澤匠選手は2位に甘んじた。8. PN2の2位には地元の関健一朗選手が入賞した。9. PN1で3位入賞の長南明宏選手。10. PN2で3位入賞の野口弘毅選手。11. 「今年の集大成の一戦で優勝できて嬉しいです」。PN2優勝の工藤典史選手。12. PN1上位入賞の皆さん。13. PN2上位入賞の皆さん。



PN3&PN4 / 14.18. PN4クラスは金子博選手が優勝。15. PN4で2位入賞の岡野博史選手。16. PN3で2位入賞の清水聡志選手。17. PN3は大坪伸貴選手が2度目のJAFカップ制覇達成。19. PN4で3位入賞の奥井優介選手。20. PN3で3位入賞の大江光輝選手。21. PN3上位入賞の皆さん。22. PN4上位入賞の皆さん。



SA1 / 23.24. 「年甲斐もなくターンだけは練習したんです(笑)。それが活きた。好バトルが展開されたSA1は阿戸幸成選手が優勝。25. SA1上位入賞の皆さん。26. 3位入賞の武田秀樹選手。27. 全日本スナガワも制した小武拓矢選手だが、今回は2位。

込み過ぎ、踏みすぎになってしまって、フリーターンも大きく回ってしまったんですが、その後のゴール手前のセクションで取り返せたのが良かったですね。天気の変化がプレッシャーになりましたが、コース自体は走り込んでいる浅間台にちょっと似てる所があったので走りやすかったです」と千歳の印象を語った。

全日本組が實績を見せたのはPN1とPN2の2クラス。PN1は福田大輔選手が、同じく全日本を追った地元の米澤匠選手を逆転で下した。「ここはもちろん初走行ですけど、金曜にドライを走れたのが大きかったですね。1本めのウ

ェットは米澤選手に手も足も出なかったし、ドライはまたウェットと全然感覚が違うので、金曜に走ってなかったら、勝負にはならなかったと思います」と振り返った。またPN2は工藤典史シビックが優勝。「限られた数しか出られなかった地区戦で全勝してJAFカップに出ることを目標にしてきたので、そのモチベーションを今日も維持できたことが勝因です」と3度めのJAFカップ制覇に笑顔を見せた。

Womenクラス同様にパイロンマイスターが揃う関東勢が制したのがPN3とPN4の2クラス。BRZ勢が表彰台を独占したPN3クラ

スは関東の第一人者、大坪伸貴選手が2度めのJAFカップ制覇を達成した。

「関東なんで、やっぱりこういうコースは勝たないと(笑)。朝、雨が降り出した時は、今日は終わりかなと思ったけど、2本めにドライになってくれたので何とかなるかな、と気持ちを切り替えました。クルマもドライの金曜に決めたセットのままで。フリーターンはコース図を見た時は左回りと思ったけど、実際にコース見て右回りに変えました。関東の人間にとっては昔あった関越に浅間台が加わったというイメージですね。グリップも違和感なかったです」



SA2&SA3 / 28. SA2は最終ゼッケンで走行した前田忍選手がベストを更新してJAFカップ初優勝。**29.** SA3で2位入賞は地元北海道の網島寛太選手。**30.** 中部のインテ使い、SA2佐野光之選手は0.3秒及ばず、2位。**31.** SA2上位入賞の皆さん。**32.33.** SA3はエキシージを操った関東の金子進選手が優勝。**34.** SA3上位入賞の皆さん。**35.** SA3で3位入賞の水谷政博選手。**36.** 近畿の中嶋敏博選手はSA2で3位に入賞。



SA4&SC / 37. SA4は地元の村上公一選手が1分19秒311のタイムでオーバーオールウィン。**38.** 東北の佐藤英樹選手はSA4で2位入賞。**39.** 久保田尊治選手はSCで2位を獲得。**40.** 全日本でも活躍する町田和雄選手が僅差の戦いを制してSCの頂点に立った。**41.** SA4の3位に入賞した後藤洋右選手。**42.** 山梨俊二選手はAE86でSCの3位に入賞。**43.** SA4上位入賞の皆さん。**44.** SC上位入賞の皆さん。



このクラス、2位には中部の清水聡志選手が関東の大江光輝選手を0.061秒の僅差で下して関東勢の1-2フィニッシュを阻止している。

一方、続くPN4クラスは関東地区戦チャンピオンの金子博選手が全日本ドライバーの岡野博史選手を下す快挙を演じた。

「金曜で路面の感触は掴んでいたのですが、昨日と今日の1本めは雨でしたが、あまり器用じゃないので(笑)、変にイジらずにあくまでドライに照準を合わせ込みました。ある意味、凄く路面に真切られるコースなんですけど、そこでクルマをコントロールする面白さがあって、3日間楽しめましたね。何より憧れの岡野さんに勝ったんで、こんな嬉しいことはありません」と金子選手は満面の笑みで振り返った。岡野選手は0.38秒遅れて2位。3位には父親の奥井毅選手とWエントリーした奥井優介選手が僅差で続き、毅選手も息子に次ぐ4位でゴールした。

またSA部門も各クラスで見応えのあるバトルが続いた。SA1クラスはこの千歳をホームコースとする小武拓矢CR-Xvs阿戸幸成シビックという全日本組のトップ争いとなり、0.133秒の僅差で阿戸選手が優勝した。

続くSA2クラスでも地元の金内佑也選手が



45. 併催のR-Ecoクラスで優勝の西山直登選手。**46.** R-1は近畿の大原秀樹選手が優勝。**47.** 86/BRZは目黒賢一選手が優勝。**48.** R-2は逸見将吾選手が優勝した。**49.** R-1上位入賞の皆さん。**50.51.** 地区対抗戦は関東・東北連合チームが1位に輝いた。

ヒート1でパイロ

ンタッチを喫する

も最速タイムをマークして注目を集めたが、ヒート2では全日本優勝経験を誇る近畿の前田忍選手が中部地区のテクニシャン、佐野光之選手を逆転で下してJAFカップを初制覇した。

「金曜は仕事で走れなかったのでドライはぶつつけ本番でした。走る直前まで地元の人のラインなどを確認して攻略法を探ったんですけど、イチカバチカの部分もありましたね(笑)。セットもウェットのままでしたが、意外と収まった感じでした。でもターンは難しかったですね。今年はJAFカップで勝つのが目標だったので嬉しいで

す。とりあえず次は全日本2勝め目指します」

近畿在住ながら関東のパイロンコースにしばしば練習に向かうという努力家だけに、その苦労が北の地で実を結んだと言えそうだ。

SA3クラスでは関東の金子進選手が再出走のためタイヤが徹しくなったエキシージをゴールへ運び込んで逆転優勝。SA4クラスでは地元の第一人者、村上公一選手が同じCT9Aランサーをドライブした東北の佐藤英樹選手を抑えてオーバーオールウィンを成し遂げた。関東のドライバー同士によるホンダ車対決となったSCクラスは0.063秒という僅差で久保田尊治シビックを下した町田和雄シビックが優勝を飾った。